

# 平成30年度活動報告



札幌水源の森づくり（定山溪国有林での現地植栽）

林野庁 北海道森林管理局  
石狩地域森林ふれあい推進センター

当センターは、都市近郊の丘陵森林、豊富な森林資源と多様な森林景観に恵まれた山岳林等にある国有林を主たる活動のフィールドとしています。

札幌市内を流れる豊平川の上流・源流部の定山溪国有林は、水源林として重要な役割を果たしているほか、ボランティア団体等の活動の場や森林環境学習の場として利用がみられるなど、市民とのかかわりが深い地域になっています。この貴重な水源林を、国民の森林として次世代へ引き継いでいくため、「札幌水源の森づくり2018」を開催しました。また、森林調査・森林観察、生態系を学ぶ活動を小学校・中学校を含む地域参加型で行うなど、「地域のもりから学ぶ森林づくり」に取り組みました。

さらに、平成16年の台風により約77haに及び風倒被害を受けた野幌森林公園において、「100年前の原始性が感じられる自然林」を目指した森林づくり「野幌森林再生プロジェクト」として、市民の皆さんと協働・連携した「団体型森林づくり」、「みんなで森林づくり」、「野幌森林づくり塾」などを行いました。

また、森林の回復状況を把握し、その内容を幅広く情報発信するため「野幌自然環境モニタリング」を継続実施しています。

そのほか、当センターの活動として、様々な団体等からの要請に応じ、協力・講師派遣などの支援活動を行ってきました。

## 札幌水源の森づくりの推進

### 市民参加型の「札幌水源の森林づくり」

「水源の森」である定山溪国有林は、札幌市民約190万人の生活を支える水道水の源として、おいしい水を育む重要な役割を果たしています。札幌市やボランティア団体等と連携し、多くの市民の皆さんの参加を得て、「札幌水源の森づくり2018」を開催し、この「水源の森」を貴重な財産として守り育て、次代へ引き継ぐこととしています。

#### H30.08.25（土）札幌市の中心部で市民参加によるポット苗木づくり

札幌市の中心部、創成川公園・狸二条広場を会場に札幌市と共同開催し、北海道、北方創森塾、平岡楡の会、NTTタウンページ(株)、森林総研札幌水源林整備事務所、国土緑化推進機構、常松学園札幌工科専門学校、酪農学園大学等にも協力していただきました。雨上がりの天候でしたが市内外から400人余りの人々が訪れ、定山溪国有林の「水源の森」現地に植栽するため再生ダンボール紙でつくる「カミネッコ」(東三郎北大名誉教授の考案)を使用してトドマツ、ミズナラ、ヤチダモのポット苗木を作成しました。



雨上がりの天候でしたがたくさんの市民が集まりました



子どもも大勢参加しています



一般参加者との記念撮影（写真中央に新島局長、河原建設局長）



学生ボランティアによる指導



協力機関のみなさんご苦労様でした



暑い中、下刈に汗を流す

H30.07.11（水）現地に植栽してある水源の森の下刈作業

毎年、市民が作ったポット苗木は、定山溪国有林に植栽していますが、植栽後の手入れとして、下刈作業を石狩森林管理署と協定を結んでいる「北方創森塾」と連携して実施しました。

H30.09.29（土）定山溪国有林にポット苗木を植栽

今年の水源の森イベントで市民が作成したポット苗木を、定山溪国有林に、札幌市、北方創森塾、NTTタウンページ(株)、NPO法人シーズネット、森林総研札幌水源林整備事務所、西松建設(株)、酪農学園大学の学生の皆さんなど総勢約70名で植栽しました。また、作業終了後は、北海道電力のご案内で、定山溪ダム下流園地にある小樽内水力発電所の見学をさせていただきました。水源の恵みを実感しました。



所長の挨拶と注意事項の指示



運搬作業が結構大変



発電所見学 北電職員による説明



ポット苗木の植栽（子どもがんばりました）



発電所内は珍しい機械がいっぱい

## 地域のもりから学ぶ森林づくり

定山溪国有林において地域に根ざした取り組みとして、「地域のもりから学ぶ森林づくり」を実施しました。「森林の生物多様性を学ぶ」等をテーマに、定山溪小・中学校を対象に実施した4回の森林教室とNPO団体等の協力による「森づくり活動発表会」を地域住民参加で行いました。

### H30.05.08（火）第1回「森林教室」を開催

定山溪三笠緑地（国有林）で、カタクリ、エゾエンゴサクなど植物の種類・数の調査を、定山溪中学校の生徒が定山溪小学校の生徒を指導しながら実施しました。また、中学校として啓発用看板を設置するなど、植生の保全活動にも取り組んでいます。



小・中学校合同で環境保全活動



高さの測定は難しな～



サイハイラン

### H30.06.26（火）第2回「森林教室」を開催

定山溪小学校の5・6年生を対象に定山溪国有林で、樹木の高さ・太さの測定に取り組み、タンジェントハイトゲージ・輪尺などの機器を使い、樹木の観察・測定を行いました。また、測定終了後は、遊歩道を散策し草花・昆虫の特徴の説明、カツラの大木の使用用途などを説明しました。散策途中には定山溪では珍しいサイハイランの花が咲いており、生徒・先生は興味深く見ていました。



この虫はなんだ

### H30.07.18（水）第3回「森林教室」

定山溪中学校が平成28年から実施している『夢の森づくり』に取り組みました。切り株椅子の広場や歩道の草刈りをし、道産トドマツチップを散布して整備しました。



歩道整備（草刈り）



トドマツチップを広場周辺に散布

### H30.09.19（水）第4回「森林教室」を開催

定山溪中学校が平成22年から取り組んでいる、奥定山溪の森林で採取し幼苗から育てた、ミズナラやエゾマツでポット苗木を作り、定山溪の森林へ植栽しました。現地ではポット苗木の植栽、いままで植栽した苗木の成長量調査、翌年度以降の苗木育成のために天然に発生した幼樹の採取も行いました。また、ポット苗木の植栽木は、厳しい気象条件に加え、毎年、エゾシカによる食害やキツネによるイタズラがあるので、食害防止柵を設置しました。



エゾシカによる食害等から守る柵を設置



ポット苗木の植栽

### H31.02.26（火）「森づくり活動発表会」を開催

定山溪小・中学校や森づくりなどを行っているNPO団体等との意見交換・交流を行い、お互いの活動の活性化を推進するため発表会を開催しました。今年は、野幌森クラブの活動、石狩署から南陵高等学校科学部の活動、定山溪中学校から身近な自然の保護やゆめの森づくりなどについて発表されました。発表後は、発表者による「もりを観察、学ぶ、育てる」をテーマにパネルディスカッションを行い、意見交換等を行いました。



中学生による発表



野幌森クラブの発表



中学生は緊張しながら



地域の皆さん等たくさん参加

## 「ゆめの森」の広場に日時計を作設

第3回森林教室（平成30年7月18日）において、定山溪中学校3年生の願いでもあった日時計作りに挑戦しました。事前に作り方や角度などを調べておいたこともあり、見事に完成しました。



時刻表示を設置



3年生4名、完成です

## 野幌森林公園における野幌森林再生プロジェクトの展開

平成16年9月の台風18号において被害を受けた野幌の森林を、100年前の原始性が感じられる自然林に再生する「野幌森林再生プロジェクト」を、平成17年度から実施しています。NPO団体等広く市民の皆さんに参加を呼びかけ、野幌の豊かな自然のすばらしさ、森林に関する理解の醸成や市民の皆さんとの協働による森林づくりに取り組んでいます。

### 団体型の森林づくり

被害を受けた人工林を自然林に再生するため、森林づくりの協定を締結したNPO団体、大学、企業等が植栽をし、その後、保育、成長量調査等について継続的に取り組んでいます。当センターでは、団体の皆さんに対して、下草刈作業の技術指導や森林整備の支援をしています。

#### H30.07.04（水）団体の活動を支援

「団体型森林づくり」協定に基づき、植栽箇所の下刈などの保育作業、成長量調査などに取り組んでいるNPO法人等に対して、センター職員が現地で技術指導などの支援を行いました。



NPO法人シーズネットの下刈作業

#### H31.02.15（金）野幌森林再生活動連絡会

北海道森林管理局中会議室において「団体型森林づくり」に参加しているNPO法人等の皆さんと石狩森林管理署及びオブザーバーとして空知総合振興局森林室・北海道博物館に参加していただき、活動連絡会を開催しました。

活動連絡会では、各団体の平成30年度の活動状況、平成31年度の活動計画について報告していただいた後、当センターから再生活動にあたっての留意点等を説明し、石狩森林管理署からは平成30年9月の台風による風倒被害状況、オブザーバーからも風倒被害等の情報提供があり、意見交換を行いました。

意見交換では、風倒被害の状況、エゾシカの生息状況等について意見交換等を行いました。



各団体からいろいろな意見が出されました



活動団体からの参加者

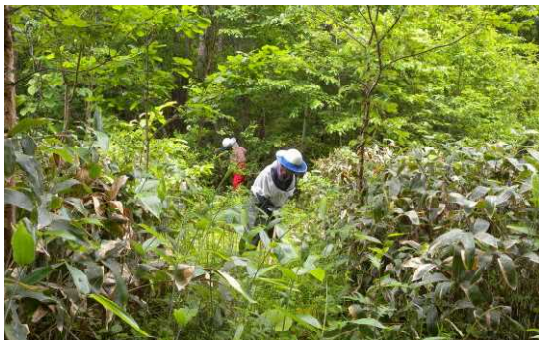
## みんなで森林づくり

団体や個人等、市民の皆さんに広く誰でも参加していただき、植栽を行った後、下列の保育作業に取り組んでいます。

### H30.06.20 (水) みんなで森林づくり

毎年、北海道博物館近くの国有林で実施しています。今年もNPO法人北広島森林ボランティア・メイブルの会長さんをはじめ、会員の方の指導のもと、公募で募った市民のみなさんと下刈作業を行いました。

当日は、初夏を思わせる晴天のもと、防蜂網、防蜂手袋などハチ刺され対策を万全にして作業を行い、みなさん爽やかな汗を流していました。



暑い中、防蜂網・防蜂手袋を着用して作業



みなさん、お疲れ様でした

## 野幌<sup>もり</sup>森林づくり塾

森林づくりに関する知識の習得と森林づくり体験をしながら森林と人とのかかわり等についての理解を深め、将来的には自主的なボランティア活動の展開につながることを期待した、森林づくり塾を2回開催しました。(3回計画しましたが、台風による風倒被害で1回中止としました。)

### H30.07.07 (土) 第1回 野幌森林づくり塾

「自動撮影を用いた野生動物観測(調査)を体験してみよう!」をテーマに、森林総合研究所北海道支所の平川浩文さんを講師に迎え開催しました。始めに、野生動物を撮影する自動撮影カメラの説明があり、その後、現地で自動撮影カメラを実際に設置しました。参加者にとって、野幌での野生動物の動向や道内でのクロテンやニホンテンの動向などの情報を知ることでき有意義な塾となりました。



講師の平川さん



熱心に説明を聞き入る塾生



塾生の皆さんです



王子エフテックス工場内を説明（西口調査役）

### H30.08.31（金）第2回 野幌森林づくり塾

「木材利用について学ぼう」をテーマに、王子エフテックス江別工場（製紙工場）と王子グリーンエナジー江別工場（木質バイオマス発電）の2箇所を見学しました。午前中は、王子エフテックスの西口調査役から、製紙事業の現状説明、資料館・工場内の見学をしました。午後からは、王子グリーンエナジーを土田課長から、木質バイオマス発電所の現状、今後の事業計画などの説明を受けました。普段は見る事が出来ない製紙工場と木質バイオマス発電を見学しましたが、塾生の皆さんも興味津々であり、午前も午後も質問が集中し予定時間を超えていました。当センターとしても初めての企画（野幌森林公園を離れて、木質バイオマス発電等の工場見学）で有り、内容に興味を持っていただけるか心配をしていましたが、塾生からの評判は上々でした。



木質バイオマス発電施設内の説明（土田課長）

### H30.10.13（土）第3回 野幌森林づくり塾 中止

「森林づくりを体験しよう」をテーマに実施予定でしたが、平成30年9月の台風21号による風倒被害等により野幌森林公園内の安全確保が出来ないことから、第3回野幌森林づくり塾は中止としました。

## 野幌森林公園 台風21号による風倒被害

平成30年9月5日、北海道近海の日本海を北上した台風21号による強風で、野幌森林公園で大量の風倒木被害が発生しました。石狩森林管理署の対応により、林道の風倒木の処理は完了しましたが、林内の風倒木処理等は、平成31年度から立木販売で実施する予定であり、その後、植栽するとしています。（参考 江別市で観測史上日最大瞬間風速更新 更新した値33.1m/s（これまでの最高値27.0 m/s 2011/12/5）札幌管区气象台資料から）



カツラコース



基線



中央線



46へ林小班



## 野幌自然環境モニタリング調査

野幌森林再生プロジェクトの大きな柱として、平成18年から、台風被害森林の回復状況を把握するために、学識経験者による「野幌自然環境モニタリング検討会」を設置しています。①森林植生、②歩行性甲虫、③菌類、④野生動物の4項目についてモニタリング調査を実施し、森林の回復度の検証や野生動物の森林への影響について検討しています。

### H30.10.23（火）「野幌自然環境モニタリング検討会(現地)」

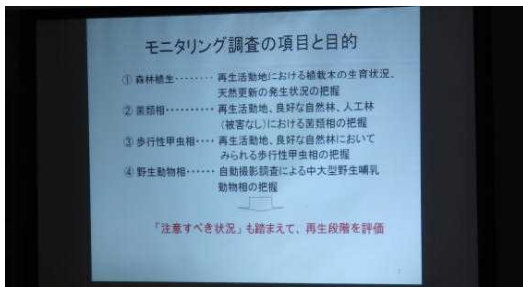
森林再生活動を行っている現地において、再生状況の把握と平成30年9月の台風21号による風倒被害箇所の状況確認をし、その後、野幌森林公園ふれあい交流館で今年度の調査状況や今後の課題について検討を行いました。また、石狩森林管理署から台風21号の風倒被害の状況と今後の風倒木処理等について意見がだされ、各委員と意見交換等を実施しました。



委員の方が現地で検討

### H31.02.01（金）「野幌自然環境モニタリング検討会(室内)」

平成30年度モニタリング調査の結果報告及び平成31年度モニタリング調査の進め方などについて検討を行いました。



パワーポイントによる現状の説明



モニタリング検討会

※ 野生動物調査については当センターで実施し、公園内の12箇所に6月、9月の各4週間、自動撮影カメラを設置し、撮影データを解析してモニタリングに活用しています。

次の写真は、自動撮影カメラが撮影した野生動物です。



エゾシカ



ユキウサギ



キツネ



アライグマ



タヌキ



コウモリ

## 森林環境教育の推進、試験研究機関・団体等への支援活動

当センターでは、森林教室への講師派遣、森林管理局のイベントへの協力、インターンシップへの対応等の支援を行っています。また、森づくりなどのイベントの直接指導などに加え、各種試験研究機関との連携やボランティア団体への協力をしました。

### H30.07.09（月）、07.10（火）森林教室へ講師派遣

千歳市立泉沢小学校は石狩森林管理署と「遊々の森」協定を結び、「かがやきの森」で活動しています。

当センターは森林管理署に協力し、森林教室に講師を派遣して支援しています。今年は3年生の枝払い作業体験、4年生の測樹体験に協力しました。生徒の皆さんは、森林教室の体験を通じて、森林の役割や大切さについて学び、考える機会になっています。



作業体験は楽しいな



木の高さの測定で、みんなが見上げています

### H30.08.04 (土)「山の日」記念 小樽天狗山登山会

北海道森林管理局（担当：技術普及課）、北海道などが主催した「山の日」記念の登山会が、小樽天狗山登山道（地蔵コース）で開催され、当センターから登山コースの案内、樹木・草花等の説明の講師として参加しました。一般参加者約100名と多く7班に分かれての登山となり、当センターも一班を担当しました。当日は天候も良く参加者からは楽しい登山会だったとの意見が多数聞かれました。



森林整備部長による開催挨拶



登りは疲れるな～



見晴らしの良いところで一休み

### H30.07.28 (土)、森と湖とダムに親しむまつり

森と湖とダムに親しむまつり実行委員会（定山溪観光協会、定山溪連合町内会など）が主催したイベントを支援しました。当センターからは「ポット苗木づくり」「コースターづくり」体験コーナーを設け、参加者が作成したポット苗木・コースターをプレゼントしました。



家族でポット苗木づくり



仲間とコースターづくり



イベント当日は最高の天候でした

## H30.08.20（月）～08.24（金）インターンシップ対応

北海道森林管理局では、学生が森林管理局の実際の行政事務に接することにより、学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的としてインターンシップを実施しています。今年は、札幌工科専門学校の学生1名（当初2名の予定が1名に変更）を、当センターが5日間受け入れ、森林管理局の組織、石狩ふれあいセンターの概要、野生動物調査、治山、生産、森林ふれあい、試験地調査等幅広い分野の業務を体験しました。女性1名でしたが最後まで熱心に説明を聞き、メモ取り等していました。（生産現場、ドローン操作体験は石狩森林管理署も協力）



何が写るかな！（自動撮影カメラを設置）



治山現場にて



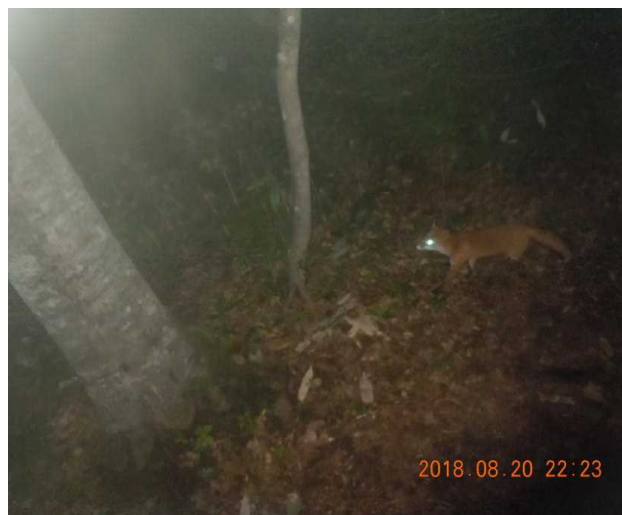
ドローンの操作体験



生産現場では初めて高性能林業機械を見た



天然更新試験地での樹木調査



20日に設置した自動撮影カメラには  
キツネが写っていました

### H30.06.04（月）、10.05（金）サルメンエビネ調査

野幌森林公園の国有林に生育している希少種のサルメンエビネは、生態について不明な部分が多いことから、平成22年から北海道立総合研究機構環境科学センター研究主幹の西川洋子さんが、春の開花調査、秋の結実・葉の測定調査について研究を続けており、当センターは、その活動を支援・協力しています。



日当たりの良いところには群生（春）



花が綺麗に咲いています（春）



開花調査（春）



葉の測定調査（秋）

### H30.06.28（木）オオハンゴンソウ抜き取り作業

野幌森林公園には、特定外来植物のオオハンゴンソウが繁茂しており、北海道ボランティア・レンジャー協議会主催の抜き取り作業に参加しました。当センターからは、運搬車両（石狩署野幌森林事務所の車両）、剪定ハサミ（根切り用）などを提供し、一般参加者らとともに、抜き取り作業に汗を流しました。



抜き取り作業



根切り作業



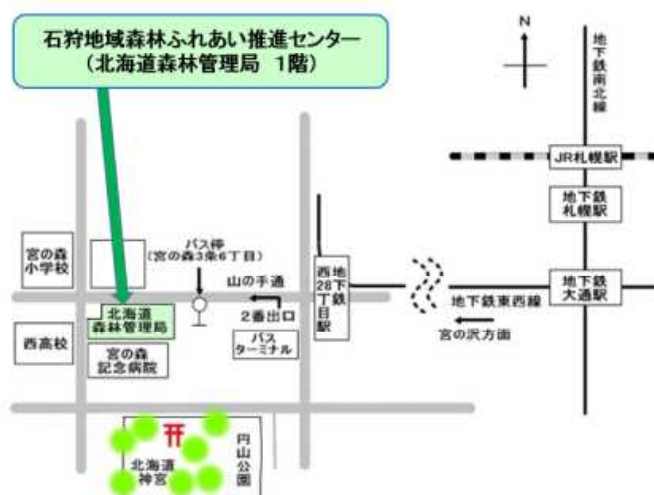
参加された皆さん、ご苦労様でした



オオハンゴンソウ山盛りのトラック

---

## 案内図



---

お問い合わせはこちらまで

林野庁 北海道森林管理局 石狩地域森林ふれあい推進センター  
064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番  
TEL 011-622-5114 FAX 011-805-0201  
ホームページ [http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/isikari\\_fc/](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/isikari_fc/)  
E-mail [h\\_ishikari\\_f@maff.go.jp](mailto:h_ishikari_f@maff.go.jp)